

人間形成の建学精神今に 改革に新機軸を続々投入

金沢工業大学学長 石川 憲一氏

—— まず、金沢工業大学の建学の精神を。

石川 母体であった北陸電波学校の建学の理念を継承、「人間形成」「技術革新」「産学協同」と定め、これを3大標旗として掲げています。日本人としての誇りと確固たる精神を矜持、国際社会に寄与できる人材、次代の技術革新を担い得る人材、人類の発展を継承し得る人材の育成、そして産学一体の学術探究を目指しています。

—— 教育改革にとてもユニークな取り組みをされていると伺いました。石川 学生、教授、経営の各代表の会議です。30数人ですね。その場で学生諸君の意見、私たちの考え方を交換しようというわけです。

—— 共に4年間過ごしてそこで学び、素晴らしい人間を形成、卒業して社会へ。そしてその子供がまた金沢工業大学へ——という訳ですね。

石川 学長講話もやっています。入学式の翌週から、4回に分けて実施しています。私も努力しますから諸君も協力して欲しい——という内容です。そして、講話を補完した小冊子を出しているんです。講話を聞いた人はその意見を提出してくださいと

いつているんです。私の話が果たして学生諸君にどう伝わったかをフィードバックして貰うんです。講話に心が入っていたかどうか、私の反省にもなるのです。

—— 冊子は毎年書き替えるわけですか。

石川 そうです。講話が一方通行にならないためですね。

—— 講話から得るものは多いでしょうね。学長になられて16年目と伺いましたが学長は選挙ですか。

石川 本学には選挙はありません。

前任学長の指名する制度になっています。私は5代目ですが、皆さんのお力添えでどうにか軌道に乗ることができました。

—— 副学長制度と伺いましたが。

石川 ええ、副学長は4人おります。例えば教育支援担当、研究支援担当、自己点検支援担当、産学連携担当など各部門を担当していただいています。もちろん最終的な責任は学長の私にあるわけです。

—— 環境的にも人間形成には最高のキャンパスですね。

石川 ありがとうございます。立地条件もよく、学生も北海道から沖縄まで本校に来ています。

—— 県内と県外の比率はどうですか。

石川 県内3割、県外7割でしょう。近県では富山、滋賀、それに東海地方からの学生が多いようです。

—— 加賀百万石の地で、名園兼六園もあり、確かに環境には恵まれていますね。

石川 そうですね。伝統文化というのは、時間と膨大な費用がかかれていますから。ですから私どもの学校も含め、石川県民がそれらを守ってきたといえます。当地には旧四高、旧制金沢医科大学と伝統校がありました。この伝統が培ってきた力は大きいですね。継続は力なり、といいますが確かに実感として感じられます。

—— 東京に社会人対象の大学院があり、好評のようですが。

石川 虎ノ門にあるんです。全国トップクラスの大学がそれぞれおやりになっており、本学も負けないようにと頑張っています。皆さん、とても熱心です。

—— ある種の達成感、これが大きいようですね。ところで、いま大学の差別化、特色化がいられています。金沢工大ではどのような特色をア



ピールされているのでしょうか。
石川 金沢はローカルですが、そこに行つて学びたいという魅力づくりに力を注いでいます。いくつかの特色を实践、または用意しています。なかでも、建学の精神にあるように人間力、人間形成をいかに醸成していくかに加えて、知識から知恵への転換ですね。ただ知識を持っているだけではなく、それを転換できる能力のある人になることを奨めています。そのため「エンジニアリングデザイン」、現在はこれを改め、「プロジェクトデザイン」と呼んでいます。1年生にはプロジェクトデザインIで5〜6名のグループをつく

り、そこで自ら設定したテーマを自分たちで研究し、再三検討会を開いて討議をする。2年生になるとリクルートスーツで成果を発表する。卒業前の発表では外部の先生方、企業人、保護者に来て頂き、厳しい質問を受けるんです。それがいわば最終試験になるわけです。基礎学力に不足がある場合には数・理・工の教育研究センターで厳しく不足分を補っていたり。きめの細かい、面倒見のよい学校を目指しています。

—— その結果が就職氷河時代といわれる昨今、就職率が95・4%という結果に現れているわけですね。石川 特色の一つとしてポートフォリオシステムがあります。パソコン上で学生がそれぞれこの1年間何をしたが一目で振り返ることが出来るシステムです。自分の進む道に確信が持てるようになったり場合によっては修正も可能です。自分のやったことを振り返り、進路を決めるわけです。ほかに特色として、今年はじめたものですが、他の大学にある特待生制度ではなく、例えば国立大学との授業料の差額を補助するシステムなどです。ただしこれには条件があり、例えば夢考房プロジェクトのうち一つのコースに入り自分の総合力を高めることです。よりステツプアップするための手段といえるで

金沢大学工学部精密工学科卒、同大学大学院工学研究科修士課程修了。1977年金沢工業大学教授。1990年教務部長、1993年副学長、1994年第5代学長に就任。公益社団法人日本工学教育協会理事、日本学術会議連携会員、精密工学会フェロー。工学博士

しょう。
—— 政府の事業仕分けで教育分野にも厳しい助成金カットの結果が出ていますが。
石川 そうですね。五輪でも1位を目指してこそ2、3位があると思うんです。何ごとも最初から2、3を目指すなどの発想はありませんね。人材育成も同様です。
—— 昔から国家百年の大計の柱は人材育成でしたから。世界で通用する、世界でしっかりやっていける人材の育成でしょうね。
石川 人間形成の実践活動の一つとして、能登半島の穴水の地に本学の研修ハウスがあるんです。昼間は、海でカッター訓練を行い、夜は自己研鑽のためのデイスカッションをやるわけです。人間力づくりです。
—— 最後に学長としての抱負を。
石川 日本という国づくりの使命感を考えると、やはり、目的、目標をしっかりと持った人材を世に送り出すことだと思っています。この44年間で大学院含め本学から57000人を輩出、社会で立派に活躍しています。この人たちの力もお借りして立派な人材を送り出したいと思っています。